

令和7年度 倉吉北高等学校 学校自己評価表

学校運営方針

目指す生徒像

- ・いかなる困難に直面しても、強い信念を持って立ち向かう生徒
- ・将来の夢(キャリアプラン)を語れる生徒
- ・故郷を愛し、故郷を大切にする生徒
- ・社会の多様な変化に柔軟に対応できる生徒

目指す学校像

- ・生徒が誇りに思う学校
- ・地域に信頼され、地域から愛される学校
- ・一人ひとりの生徒の進路実現に努める学校
- ・生徒、教職員が元気な学校

今年度の重点目標

- ① 豊かな人間性の育成
- ② 「確かな学力」の育成
- ③ 進路指導の充実
- ④ 部活動等の充実
- ⑤ 社会貢献活動の推進

評価基準

- A:概ね達成(80%程度以上)
B:変化の兆し(60%程度)
C:まだ不十分(40%程度)
D:方策の見直し(30%以下)

評価項目		当 初 計 画		評 価 結 果		
		目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価
① 豊かな人間性の育成		○学校生活全体を通じて、誰にも優しく、親切で、礼儀正しく思慮深い生徒	○しっかりと挨拶が出来る生徒が多い。	○挨拶運動を継続する。		
		○自他を大切にする生徒	○生徒間の関係はおおむね良好だが、中には人間関係で悩む生徒もいる。	○学校生活アンケート、Hyper-QU等を通して、生徒からのサインを見逃さず速やかな対応をする。		
		○差別やいじめのない学校	○人権教育などを通して、差別やいじめのない学校作りを推進している。	○LHRや日常的教育活動を通して誹謗中傷やいじめがない学校を築いていくよう働きかける。		
		○様々な事柄に興味、関心を持つ生徒	○探究や生徒会活動を通して、SDGsへの意識を高める取り組みをしている。	○持続可能な開発目標の理解を図るために、生徒会を中心とした取り組みを強化する。		
		○環境保全に努める生徒	○地域社会との様々な関わりを通して、地域の課題に向き合いその解決に資するよう取り組んでいる。	○総合的な探究の時間 課題研究を充実させる。		
② 「確かな学力」の育成		○授業改革を進め生徒の考える力を高め、進路実現に向けた確かな学力を養成する。	○ICTを活用した授業の工夫に一層の努力が必要である。	○ICT研修の定期的な実施と各教科によるICTを活用した授業研究等を実施する。		
			○主体的な学びを深めるため、少人数授業や対話的、探究的授業なども取り入れている。	○朝学習でClassiを利用し基礎学力の定着を図る。		
			○学びなおしの必要な生徒もいるため、基礎学力の定着を目的とした朝学習の時間を設定している。	○先進校視察や教員研修で、各教員の授業力向上を図る。		
				○協同学習を取り入れた授業を展開し、各教科毎に公開授業を実施する。		
				○模試等の結果分析を全教員が共有し、改善策を検討する。		
③ 進路指導の充実		○生徒一人一人の能力・適性などに配慮した個別指導を徹底し、進路希望を実現させる。	○特別進学コースでは、希望する生徒に放課後補習や土曜補習を実施するなど、生徒一人ひとりの学力向上に努めている。	○3年間を見据えたキャリアプランを作成し、各生徒の意識付けに努める。あわせてキャリアパスポートを活用する。		
		・面談指導の充実	○1年次から実施しているキャリア教育・進路探究において、その時限りの取組になりがち。3年間を通した取り組みとして、探究学習との計画的な連携が必要。	○担任団やキャリア教育担当による面談を断続的に行い、生徒の心情理解に努めるとともに、学習意欲の向上に努める。		
		・国公立大学5名以上合格	○3年間を中心に、面接指導(三段階面接)などの個別指導が徹底されている。	○Classi学習動画などを利用し、家庭学習の充実を図る。		
		・就職率100%	○コースや類型を中心に大学・専門学校や外部施設との連携授業や企画が増え、授業における進路や専門性の関心を高めることができた。	○朝学習にICTを活用し、個々の学力に応じた課題や弱点克服を図る。		
			○コースや類型を中心に大学・専門学校や外部施設との連携授業や企画が増え、授業における進路や専門性の関心を高めることができた。	○高大・企業連携をさらに深めることで、出前授業などの取り組みを進め、さらに進路意識・選択の向上につなげていく。		
④ 部活動等の充実		○部活動等を通して、自主性や向上心、忍耐力、協調性、責任感、連帯感などを育成する。	○模試でSS50以上の生徒数を増やし、国公立大学や難関大学合格者数の増加に向けた進学指導を行っている。年度によって学力や進路の向上に努める。	○朝学習や授業、補習等を通して基礎学力定着を徹底し、就職試験・入試に打ち負けない学力を身につける。		
		○全国大会で活躍する生徒を育成する。	○礼儀正しい生徒が多く、生徒会活動でも部活動を頑張っている生徒が執行部を運営している。	○部活動において、競技力の向上と併せて社会貢献など人間力の向上を目指した活動を推進する。		
		○県大会優勝 チーム・個人 昨年度以上	○各運動部が中国大会、全国大会を目標にして活動している。	○外部指導者・外部トレーナーなども活用し、選手の強化を図る。		
			○目的を持って活動している生徒がいる反面、部活動に加入していない生徒も多い。	○部活動への勧誘を奨励し、活発な活動を展開する。		
			○各部活動が、それぞれ目標に向かった活動をしている。	○県内外の優秀な中学生への勧誘を強化する。		
⑤ 社会貢献活動の推進		○社会貢献の意義を学び、主体的に行動できるよう、ボランティア活動等に取り組む。	○各役員が定期的に機会を与える。何に自主的か？			
⑥ 安心安全な学校生活の確保		○感染症対策、感染防止対応が十分に出来ている学校集団	○地域や施設でのボランティア活動への参加を積極的に呼びかけている。	○ボランティア募集を各クラスに掲示、積極的にボランティア活動に参加するよう呼びかける。		
			○地域貢献のボランティアや進路選択に向けたボランティア参加が増えている。	○ボランティア活動に個人で参加する生徒の増加のために、生徒の進路を把握し、一人一人に呼びかけいく。		
			○生徒会、部活動、福祉類型選択者などが活動を行っている。	○地域貢献に向けて、社会課題・地域課題を情報発信し、具体的に地域貢献に関わろうとする生徒を増やす。		
			○探究活動を通して、地域貢献に関わろうとする生徒も出てきた。			
		○自転車登校する生徒へのヘルメット着用の意識向上	○手洗いは徹底されてきたが、教室、部室等の衛生管理の徹底が必要	○手洗い、換気、消毒を徹底する。		
		○校則、マナーを守り、規範意識を高める	○教室内の換気は毎時間行っている。	○寮におけるガイドラインを守り、規則正しい生活をする。		
			○寮で時折、集団の感染症がみられる。	○授業内容及び行事など感染対策を継続して行う。		
			○登下校時の確認。	○ヘルメット着用を呼びかけるとともに、実際にあった事案を基に、ヘルメット着用の重要性を考えさせる。		
			○関係機関と連携し研修会等を行う。	○違反者に対する指導法を工夫し、ルールの意味を考えさせる。		